

学校だより 9月号

令和8年8月27日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045(811)6710 後期課程 ☎045(811)6030

子どもたちが学ぶ、豊かな“場”

前期課程副校長 柴 諭

長かった夏休みが終わり、子どもたちみんなの元気な声がふたたび学校に戻ってまいりました。毎日の授業等を通しての子どもたちの学びが再開されます。私たち“学校”の教職員にとって、授業や日々のかかわりは、子どもたちの学び・成長に向けて取り組むことのできるかけがえのない場面です。ですが、子どもたちが学校で過ごす時間は睡眠時間を除く生活時間のうち、わずか4分の1ほどに過ぎません。子どもたちは、とても長い時間を学校以外の場所で過ごしているのです。

そんななか、この夏休み期間中に「子どもたちは様々な“場”で豊かに学ぶのだな」と感じる場面にもいくつか出会うことができました。

緑園青少年居場所作り協議会の方々による防災キャンプ『震災が起こるとどうなるのだろう!』では、地域防災拠点の備品を活用して沸かしたお湯を使っの咖喱作りや段ボールベッド作りなどが盛り込まれたプログラムを体験したり、ボランティアとしてかかわったりする頼もしい姿が、また、スポーツ推進委員の皆さんによる『水泳教室』では専門の指導員さんや水泳部の皆さんの丁寧なサポートを受けて今まで以上に泳げるようになったり、水と豊かに触れ合ったりする姿が見られました。

8月中旬には、本校の学校図書館(ALL)で近隣の大学生の皆さんとかかわりながら子どもたちが宿題やそれぞれの課題などの学習に熱心に取り組んでいました。これは、横浜市が進める学校・地域連携推進事業の一環「放課後学び場事業」として学校・地域コーディネーターの方たちが間に入って進めてくださっていたものです。

また、キッズクラブでも夏休みならではの場所や時間の制約をこえた様々な取組をしてくださっていたようで、子どもたちから「〇〇が楽しかったよ!」とたくさんのお話を聞くことができました。

小学校での勤務しか経験をしてこなかった自分にとっては夏休み中にも部活動に懸命に取り組む生徒たちや熱心に指導される先生方の姿を見ることができたことも大きな気づきでしたし、学校という限られた場所の中、私が把握できているだけでも、夏休み期間中にここまでたくさんの貴重な“学びや体験の場”があることがとてもうれしく感じられました。携わってくださった全ての皆様に、心より深く御礼申し上げます。

子どもたちは、家庭で、地域で、そして、学校で学び、成長していきます。子どもたちのために何ができるのかを真摯に考え、“それぞれが、子どもたちのためにできること”に取り組んでいくことの大切さとありがたさを改めて感じることでできた夏休みでした。

横浜の教育が目指す人づくり「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」、そして、校訓「真のグローバル人材に 自主・協働・創造」に向け、これからも手を携えて歩んでまいりたいと存じます。今後とも、保護者、地域、ご関係の皆様の変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。